
エレメント

ヴィス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エレメント

【Nコード】

N7253X

【作者名】

グイス

【あらすじ】

水谷流之は霊南高校の入学式に水の精霊のウンディーネに逢う。それは、悪魔との戦いの道しるべ。

エレメント（前書き）

初めましての方は初めまして、ヴィスです。

この作品のテーマは『現代』と『ファンタジー』です。

そして、笑いあり、戦闘あり、涙ありの小説にしていきたいと思っています。何卒、よろしくお願いします。

エレメント

俺の名前は水谷^{みずたに} 流之^{りゅうじ}。これから^{れいなん} 靈南高校に入学する1年生。

「ほーら、早く行くよ」

で、この人が俺の姉兼世界史の先生。名前は水谷^{みずたに} 舞由里^{まゆり}。

「ちよつ、引つ張るなつて」

この姉はホントに困った人です。何せこの姉は酒癖が非常に悪いのだ。そのせいで俺はプロレス技を何回も掛けられていた経験がある。朝、靈南高校に着く。うわー、結構デカイな。面積どれくらいなんだろ。

「舞由里先生お早うございます」

「おはよう」

女子生徒が姉貴に挨拶をする。以外と慕われているんだな。

場所は靈南高校の体育館。入学式の始まりだ。

これから俺はこの学校で生活をするんだ。楽しみだな。

『おい、そこのお主』

ん？ 誰か呼ばれたような……気のせいだよな。俺の知り合いはここにはいないはず。

『お主じゃよ』

ポンと現われたのは水色の髪に水色の服。しかも小さい。え？ 何これ？ この学校って幽霊がいるの？

何がどうなってんだよ！ パンフにはんなの書いてないぜ？

『安心せい。私は特別な人間にしか見えない』

と、特別？

『私は水の精霊のウンディーネ。そしてお主は私の主人になったのじゃ』

あ、主人？ 精霊？ 一体なんのことだよ。そもそも特別な人間って……わけわかんねえ。

『お主を見込んで頼みがある。私と契約をしてくれないか？』

は、はア？ 契約？ なんのと言ってんだよ。

「つか、お前と契約をして何すんだよ！」

『ここに来る悪魔を倒す。それだけじゃ』

「……その悪魔は何体いるんだ？」

『分からん、少なくとも1000は軽く行く』

冗談じゃない。んなのやってやれるか、そんな捨て台詞を言ってク

ラスへ移動。

時間は放課後、あのウンディーネとか言う奴の言っていた悪魔は全然来なかった。

「帰るか」

さつさと帰る準備をして家へ帰宅。しようとしたら、ズドンと爆発音が聞こえる。最初は何かの撮影かなって思ったが、こんなデカイ学校で撮影するなんて考えられなかった。

音がする場所に移動すると、何かのクレーターがある。まさか、アイツが言っていた悪魔じゃ……いや、考えられん。悪魔なんてしょせん架空の生き物であって実際にいるはずない。でも、実際精霊にあつてしまった。それは事実だ。

「くっそおお!!」

「ちよっ、流之！ そっちは危ないわよ！」

悪魔の姿は見えない。移動したか。

爆発音から数秒経っているからそう遠くには言っていないはずだ。どこだ？ どこにいる？

『お主、何をやっている』

悪魔を探していたらウンディーネに出会った。調度いい、俺の気持ち伝えなきゃ。

「ウンディーネ、俺はお前の主人になる」

『し、正気か?』

「俺は本気だ」

真っ直ぐと眼を見る。俺が本気だと。

数秒の沈黙。ウンディーネは黙ったまま地面に文字を書いている。
まさか……

『男に二言はないぞ? 水谷流之』

「ああ!」

『我が名はウンディーネ、主人は水谷流之。我が契約に従い、我が力は主人へ』

「ッ!?!」

か、身体が……痛いつ!

『頑張るのだ、主人! それさえ我慢できれば主人は悪魔を倒すことが出来る』

「ガアアアアッ!……!」

スッと何かが入る。するとさっきまでの痛みが嘘のように消える。

『私は流之の中にいる。だから力が漲るのじゃ』

「よっしゃー！ 行くぜー！」

『あまり調子に乗るなよ。私との融合は体力の消費が激しい』

「分かってるよ」

『フツ、では行くぞ』

「ああ！」

ウンディーネによると、その融合とは、特殊な力があると言う。しかも、精霊によって特殊な力が異なるらしい。

ウンディーネは千里眼、シルフはスピード、サラマンダーは力、ノームは防御がそれぞれ高い。

「見つけたぞこの悪魔！」

『この悪魔はアモン、口元から炎を吐き出すから気を付けろ』

「了解」

猿みたいな格好しやがって。ふざけているのか？

「てい！」

右ストレートで攻撃。しかし、素早いアモンは避ける。ちょこまかと……っ！

『大丈夫だ。今のお前は眼がいい。必ず相手の攻撃パターンが読み取れるはずじゃ』

……よし。

神経を集中させて眼を瞑る。相手の音、軌道を読むんだ。段々近づいてるのが分かる。ここだ！

「たぁーっ！ー！」

右フックが炸裂。すると悪魔は徐々に姿が消える。終わった……のか？

『うむ、お疲れじゃ。これから悪魔はこの学校を襲ってくるだろう。日々是精進じゃ』

「ああ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7253x/>

エレメント

2011年10月19日09時22分発行